



その謎、たいへんよく挽けました。

「良いコーヒーとは、悪魔のように黒く、地獄のように熱く、天使のように純粋で、そして恋のように甘い」フランスのタレーラン伯爵はかつてこのように語った。この言葉は理想のコーヒーを語る上で欠かせない至言として後世に語り継がれている。

そして僕は今、とある喫茶店の前にいる——〈純喫茶 タレーラン〉の前に。偶然立ち寄ったタレーランの名を冠するこの店で、僕は出会ってしまった。追い求めていた理想のコーヒーに、そして彼女に——。

岡崎琢磨氏の著書『珈琲店タレーランの事件簿』シリーズは、京都のとある喫茶店を舞台とした推理小説である。物語は語り手である「僕」こと青年アオヤマとバリスタ「切間美星」がさまざまな謎と出会い、それを解決していく形で進む。2人が出会っていく謎は、日常に潜む些細なものから誘拐事件のような大事件まで多様だ。しかもこの謎解き、どれも一筋縄ではいかないものばかりである。一見簡単に思える謎も、いざ蓋を開ければその背後に幾重にも重なったトリックが隠れている。張り巡らされた伏線が理路整然と回収されていき、読者の予想の先を行く展開を見せる。

この作品の魅力はそれだけではない。喫茶店が舞台で登場人物がバリスタということもあり、作中の随所にコーヒーについての知識が散りばめられている。中には、トリックそのものにコーヒーの知識が使われる話もある。また、登場人物の名前もコーヒーに関連したものであるなど、ささやかな遊び心が見て取れる。読んでいくうちにコーヒーのことを好きになっていく、そんな小説になっている。

〈純喫茶 タレーラン〉はもちろん実在しない。タレーランがあるはずの場所に行っても、そこは普通の公園でしかない。ただ、京都にはたくさんの喫茶店がある。自分だけの喫茶店を見つけ、コーヒーを片手に『タレーラン』に読みふけてみてはいかがだろうか。そこには何か、素敵な出会いがあるかもしれない——。

### 珈琲店タレーランの事件簿

定価(税別)

- |                       |      |
|-----------------------|------|
| 1. また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を | ¥648 |
| 2. 彼女はカフェオレの夢を見る      | ¥648 |
| 3. 心を乱すブレンドは          | ¥650 |
| 4. ブレイクは五種類のフレーバーで    | ¥660 |

作者：岡崎琢磨

発行：宝島社



本誌巻頭の「京大人の道 COMPASS」では『珈琲店タレーランの事件簿』シリーズの作者である岡崎琢磨氏のインタビュー記事を掲載しています。そちらもぜひご覧ください。

(人環・院 今出川御影)  
(目が進化；編)

はみだし  
すてーじ

何でもかんでもマガシカすれば良いというものでもない。  
⇒デメキンもだめですか？

# 珈琲店タレーランの事件簿